



《雨後千曲川》[長野県下水内郡豊田村豊津碓]1977年 * []内の地名の表記は、制作時の記録等に基づきます。

向井潤吉

水辺の情景

2016年4月2日[土]—7月24日[日]

開館時間：10:00～18:00(最終入館は17:30まで)

休館日：毎週月曜日(ただし、祝・休日と重なった場合は開館し、翌平日休館)

観覧料：一般200円(160円)、大高生150円(120円)、65歳以上／中小生100円(80円)

* 障害者の方は100円(80円)、ただし小・中・高・大学生の障害者は無料。介助者(当該障害者1名につき、1名)は無料。
証明書をご提示のうえ、お申し出ください。

* ()内は20名以上の団体料金 * 小・中学生は土、日、祝・休日、夏休み期間は無料

世田谷美術館分館

向井潤吉アトリエ館

〒154-0016 東京都世田谷区弦巻2-5-1 TEL:03-5450-9581
<http://www.mukaijunkichi-annex.jp/>

向井潤吉 水辺の情景

水辺に佇む民家。その風景は、水が人々の豊かな生活を支えてきた証だといえるでしょう。時に厳しい自然は人々の生活をおびやかしますが、海や川は、常に人々へ多くの実りと恵みをもたらしてきました。

戦後、全国各地を訪ね、伝統的な民家を描き続けた洋画家・向井潤吉(1901-1995)は、山間や町の風景だけでなく、そうした水辺の情景を描いた作品も数多く残しました。海や川に寄り添うように佇む民家の姿、そして、漁や田植えといった、人々の風土に根ざした生活にも、目を向けています。

向井は、木々の枝ぶりや生い茂る草花を、ごく細い筆を用いて細密に描き出し、清らかな小川の流れや、満々と水をたたえて白く光る川面もまた、巧みな筆遣いであらわすことによって、静かさと穏やかさにあふれた画面を創り出しています。

本展では、当館所蔵の油彩作品、水彩作品の中から、水辺にある民家と、そこで暮らす人々の生活の様子を描いた作品を集め、ご紹介します。向井の多彩な絵画表現に触れつつ、水辺ならではの風情をお楽しみいただければと思います。



《水郷風景》[奈良県天理市萱生町]1977年



《水辺の曲り家》[岩手県稗貫郡大迫町内川目]1976年



《早春の水路》[埼玉県川越市新河岸]1982年



《不詳(田植え)》制作年不詳



《小国川々畔の家》[山形県西置賜郡小国町長者原]制作年不詳



《一隅の風景》[茨城県東茨城郡大洗町]1975年

世田谷美術館分館 向井潤吉アトリエ館

[交通案内]

東急田園都市線「駒沢大学」駅西口 徒歩10分／東急世田谷線「松陰神社前」駅 徒歩17分／東急バス(渋05) 渋谷駅～弦巻営業所「駒沢中学校」徒歩3分／東急バス(等11) 祖師ヶ谷大蔵駅～等々力操車所「駒沢三丁目」徒歩3分／東急バス(渋11) 渋谷駅～田園調布駅「駒沢大学駅前」徒歩10分／東急バス(渋12) 渋谷駅～二子玉川駅・高津営業所「駒沢大学駅前」徒歩10分

世田谷美術館分館 清川泰次記念ギャラリー

〒157-0066
東京都世田谷区成城2-22-17
TEL:03-3416-1202
<http://www.kiyokawataiji-annex.jp/>

◆ 新収蔵作品を中心に1 清川泰次 地中海、アジアの旅から
2016年4月2日(土)～7月24日(日)



©宮本和義

世田谷美術館分館 宮本三郎記念美術館

〒158-0083
東京都世田谷区奥沢5-38-13
TEL:03-5483-3836
<http://www.miyamotosaburo-annex.jp/>

◆ 宮本三郎の青春—その戦中までの歩み
2016年4月2日(土)～7月24日(日)



©宮本和義



©宮本和義



世田谷美術館

〒157-0075 東京都世田谷区砧公園1-2 TEL:03-3415-6011(代表)

[展覧会のご案内] TEL:03-5777-8600(ハローダイヤル)

<http://www.setagayaartmuseum.or.jp/>

* 詳細はホームページなどでご確認ください。

同時開催

企画展

ミュージアム
コレクション]

◆ ファッション史の愉しみ—石山彰ブック・コレクションより— | 2月13日(土)～4月10日(日)

◆ 竹中工務店400年の夢—時をきざむ建築の文化史 | 4月23日(土)～6月19日(日)

◆ アルバレス・プラボ写真展—メキシコ、静かなる光と時 | 7月2日(土)～8月28日(日)

◆ アーティスト・コロニー・セタガヤ
—「白と黒の会」、「砧人会」、「自由が丘文化人会」 | 4月9日(土)～7月10日(日)